

6月の校長先生のお話

# 「10秒の壁」

「10秒の壁」とは陸上競技の100m走10秒というタイムのことです。

世界では、1968年にアメリカの選手が9秒9の記録を出し、「10秒の壁」は壊されました。  
**50年以上も前**の話です。その頃の日本記録は10秒34です。

ちなみに世界記録は、ジャマイカのウサインボルト選手の持つ9秒58です。

日本では、1997年に朝原宣治(のぶはる)選手が10秒08、1998年に伊藤浩司選手が、10秒00を記録し、「いよいよ」と思ったのですが、なかなかそこから「壁」を越えられませんでした。「日本人にはやっぱりここが限界。10秒を切るのは無理なのかな…」と思っていたのが、正直なところでした。

目標というものは、努力をすれば手が届くところにあるから頑張る気持ちが湧いてきますよね。「10秒の壁」と称され、この間、何度挑戦してもその度に跳ね返されるので、「それは無理だ」と諦めの気持ちになり、やる気を失った選手もいたのかもしれませんが。

ところが、選手たちは諦めませんでした。どうしたらもっと速く走れるか。

研究を重ね、練習を重ね、努力を重ね…

ついに、2017年、桐生祥秀(よしひで)選手が、9秒98を出し、「10秒の壁」は壊されました。今から6年前の話で、あれから20年近くかかったことになります。

それからは2019年サニブラウン選手が10秒97、2021年には山縣亮太選手が9秒95と、たった4年の間に記録は更新されていきました。不思議だね。



なぜ長い間、この「10秒の壁」は破られなかったのでしょうか？

それは、我々日本人がこの記録を「壁」と呼んでしまったからだと思います。

日本人には「無理」。そういった壁を作ってしまったからだと思います。

皆さんも、「ぼくには無理、私には無理」と自分で「壁」を作っていることはないでしょうか？

例えば、自分からあいさつするなんて無理とか。こんな算数の問題は無理とか。逆上がりなんてできないとか…自分で「壁」を作っていることがあるよね。

そうではなくて…「ぼくにもできる」「わたしにもできる」と考えることが大事だと思うのです。そのための「やる気スイッチ」をみんなでもONにしましょう。すぐに結果がでなくてもいいのです。

みんなが、何事にもあきらめず、チャレンジする姿、「壁」を壊す姿、これからも楽しみにしています。

